

「柏崎の橋」

1 1 水道橋

「川の百科事典」によると「橋梁の1つで、上下水道用水や灌漑用水、工業用水などのための水路が河川や溪谷等をまたぐときに設置されるもの」を、「水路橋」または「水道橋」と呼ぶ。

昭和の時代、鵜川に西本町三丁目と大久保一丁目をつなぐ、アーチをそなえた独特な形の橋「水道橋」があった。

柏崎の水問題を解決するため昭和 11 年に起工した上水道敷設にともない、川内水源地から柏崎市中心部に飲料水を運ぶ水道管が通された。

水道橋はこの上水道付帯工事として、昭和12年1月29日着工し、同年6月8日完成したものである。この橋の脇を水道管が通っていたことから「水道橋」と名づけられた。「柏崎の水道」には「この橋によって渡されている水道管のサイズは400ミリである。当時としては、重要な水道管であった。」と記されている。

鵜川は洪水を防ぐためたびたび河川改修が行われ、川幅も広くなり、右上写真のように橋も長くなった。



水道橋

(「柏崎市史資料集近現代篇3上」より)

昭和53年以降の写真と思われる。
橋板の左脇のパイプが名前の由来となった水道管。



建設初期の水道橋

(「柏崎市史資料集近現代篇3上」より)



昭和53年頃の水道橋

(「柏崎の水道」より)

鉄骨に木の橋板をのせたこの橋は、人や自転車・バイクは通れたが、自動車は通ることができなかった。

昭和57年、鵜川激特工事により姿を消したが、昭和62年にかつて存在した場所に赤い欄干のみの「水道橋」が竣工。また平成9年、旧鵜川の川筋に完成した公園は「水道橋公園」と命名され親しまれ、橋の名を後世に残している。

●参考にした本

- ・柏崎市史資料集近現代篇(224 Kシハ)
- ・砂丘の大地に生きる(224 Kチユ)
- ・わたしたちのまち大洲(224 ワタ)
- ・柏崎百年(224 ササ) 笹川芳三著
- ・柏崎の水道(518 Kカス)
- ・川の百科事典(R517.0 カ)